2016年度事業報告書

公益財団法人 第5期

(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

- 事業概要
- ・事業報告
- 評議員会、理事会、事務局等

公益財団法人 本庄早稲田国際リサーチパーク



1. 産学官連携推進事業

【事業の目的】

埼玉県、本庄市、早稲田大学、地域産業、市民と協働し、埼玉県北を中心とした北関東地域の研究拠点を目指す。産学官連携の共同研究を促進し、早稲田大学を中心とした研究機関の知を地域産業界と繋げ、先進的なまちづくり「本庄モデル」を構築する。

(1) 公的資金を活用した共同研究の実施

中期計画アクションプラン

【2-7 中期計画の推進】

- ・ 国や県の委託事業なども活用しながら、効率的な人材の配置を図る。
- ・ 公的事業の受託や助成金の給付を実現し、効果的な事業運営を目指す。

なし

(2) 本庁早稲田オープンイノベーションネットワークの展開

中期計画アクションプラン

【2-2 連携の多面化・多層化と信頼の醸成】

・ 地域を超えた大学、経済団体、行政等との連携をすすめる

【2-6 新しい研究会組織と会員の拡大】

- 4部会を立ち上げる
- ・ 会員数を2018年度には150社とする
- ①中小企業・小規模事業者向け補助金活用セミナー

関係機関と連携し、中小企業及び小規模事業者向けのセミナーを開催した。

日 時:10月14日(火)14時から16時30分

内 容:「平成28年度第2次補正予算案について」経済産業省 関東経済産業局 「ものづくり補助金申請対策~申請書作成のコツ~」公益財団法人埼玉県産業振興公社 「挑戦支援資本強化特例制度(資本性ローン)について」日本政策金融公庫 「経営革新計画について」埼玉県北部地域振興センター本庄事務所

参加者数:90名

協力機関:経済産業省関東経済産業局、

埼玉県北部地域振興センター本庄事務所



②3部会(次世代地域・モビリティ研究部会、環境・エリアマネジメント研究部会、食と農研究部会)活動中。「くらしと健康研究部会」は未設立であるが、次の活動を実施した。

【出前セミナー】

日 時:4月17日(月)、5月17日(火)13時30分から15時

内 容:「高齢者の転倒防止と健康維持について」

講 師:埼玉県立大学 保健医療福祉学部 理学療法学科 教授 田口 孝行 氏

会 場:社会福祉法人城南会 特別養護老人ホーム しらさぎ 受講者数:75名(2日間の合計)



【社会福祉法人ニーズと企業技術のマッチング】 通気性が高く使い勝手の良い車いす用雨具 を求めている社会福祉法人(社会福祉法人城 南会)とスポーツウェア製造会社(株式会社カ ネマス)の技術(はっ水生地)をマッチングし、 車いす用雨合羽の開発を支援した。 彩の国ビジネスアリーナで展示。







【農業者の健康調査】

昨年度実施した後期高齢者医療費医療費分析により、農業従事者は非従事者よりも医療費が少ない (H26 年間医療費の差は18万円程度)ことが判明した。この結果を受け、アンケートによる実態調査をおこなった。

方 法:アンケート調査

実施日:2月、3月

対象者:JA埼玉ひびきの農業協同組合員(本庄営農センターおよび児玉営農センター)3.879人

本庄1~4丁目及び駅南1~2丁目の住民約1,900世帯

実施者:早稲田大学 持続型食・農・バイオ研究所 農業者の健康調査班

(責任者・早稲田大学政経学術院名誉教授・堀口健治、社会科学総合学術院教授・弦間正彦)

③現在の会員数(2017年3月31日現在)*カッコ内は2016.3.31現在

[賛助会員] 20団体(17団体)

[正会員] 64社 (62社)

- 合計 91(84) * 16社増、9社減

[個人会員] 7名 (5名)

(3) プロジェクトの推進、事業化支援

中期計画アクションプラン【2-1 先進プロジェクトの推進】

- ・ 革新性のあるプロジェクト、地域や産業の振興に波及効果のあるプロジェクトなどを創出し推進する。
- ①【児玉白楊高校スマート農業プロジェクト第2フェーズ】

2015年度に立ち上げた、早稲田大学国際情報通信研究センター(GITI)浦野義頼名誉教授による技術指導を含めた農業分野でのICT活用をテーマとした産学官連携プロジェクト。

〈目的〉農業・工業系専門高校生徒による農業分野でのICTを活用した課題研究を、産学官で支援することで、次世代農業生産者・産業人材の育成と、ビジネスチャンス構築を通じた地域産業の振興を目指す。

2015年度活動状況: 児玉白楊高校環境デザイン科の生徒が、企業の支援を得ながら半自動による遠隔灌水を可能とするデモシステム「水やり君」を作り上げた。

2016年度進捗状況: 児玉白楊高校3年次課題研究の一環として、引き続き環境デザイン科と電子機械科の生徒たちが、新設された新工業棟の前庭におけるICT装置の実装に取り組んだ。取組内容は、児玉白楊高校文化祭および彩の国ビジネスアリーナ2016において発表。

なお、製作した装置の実装にあたっては14社の地元企業から技術指導や資材提供の支援を受けたが、この企業との連携が高く評価されて「埼玉県キャリア教育実践アワード2017」において優秀賞を獲得した。今後、実用化に向けての取組を検討予定。





【水やり君の操作画面と 庭に設置した装置】



【彩の国ビジネスアリー ナにおける発表の様子】

②【Saitama-Resourceプロジェクト】

県内企業による優れた農産加工品を、コンセプトメイキングと併せてブランド化し、埼玉における新たな切り口の名産品として取りまとめ、国内外の展示会において展開するとともに、参加企業間のコラボレーションを仲介し、ブランド化の支援を行った。







【FOOD TAIPEI 出展】





【ウェルネスフードジャパン出展】

③【インドネシアおよび日本国内での再生可能エネルギー事業化】

インドネシアでの、自動車部品リサイクル・太陽光発電事業ならびに日本国内でのバイオマス発電事業について、 事業化可能性の検証と海外事業パートナーの紹介等を実施した。事業検討に関しては、インドネシア現地での調査 や関連設備企業との調整を行い、事業化に際しての具体的な事業計画を提案した。

実施体制:㈱ウェーブ、早稲田大学小野田研究室、㈱早稲田環境研究所、当財団



【バッテリー再生工場】



【太陽光発電事業候補地】

【事業の成果・今後の展開】

補助金獲得に難航したことから、プロジェクトの設立から事業化への進捗状況は芳しくなかった。一方、セミナーを通じた新プロジェクトの立ち上げ準備を進めるほか、補助金セミナー開催などを通じた各支援機関との連携促進に取り組み、一定の成果を得ることができた。

また、財団の企業支援のあり方を再検討する1年であったが、新年度の方針や方向性を固めることができた。2017年度は、これまで準備してきた事案の事業化をすすめるとともに、他機関と連携した企業支援方法を確立していく。



HONJO WASEDA RESEARCH PARK 2. 地域產業活性化支援事業

【事業の目的】

地域産業の経営基盤を強化し、新たな産業の創出を推進するため、県内外の関連支援機関との連携体制 を構築する。また、地域の特徴を活かした産業支援策を積極的に展開することにより、埼玉県北を中心とした 北関東地域の産業支援拠点の確立を目指す。

中期計画アクションプラン

【2-7 中期計画の推進】

研究会組織の会員全体へのサービスの充実を図る。

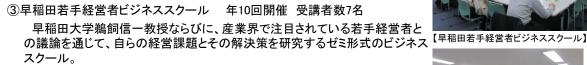
(1)企業の人材育成支援

産学連携のパートナーである地域企業の経営基盤の強化を図るため 「本庄早稲田塾」を開催し、人材育成を支援した。

- ①企業経営者・管理者研修 年1回開催(6月) 受講者数29名
 - 対象:新たに部長等の管理者になった者
 - 講義内容:管理監督者に必要なマネジメントやコーチング等の習得
 - ・成果:アンケート結果「大変参考になった・参考になった」が100%



- 対象:企業の中堅社員、実務担当者等
- ・講義内容:ISO9001内部監査員、女性キャリアアップ、企業会計入門 主導権を握る最強のセールストーク、幹部候補育成
- ・成果:アンケート結果「大変参考になった・参考になった」が平均98.4%





- ・講義内容:中小企業経営論、リーダーシップ論等、受講生自らが設定した 経営課題研究
- ・成果:(ア)若手経営者が他の企業経営者の成功体験等を聴ける貴重な場 になっている。
 - (イ)6期目となり、受講生のネットワークが形成されてきた。
 - (ウ)特別講座として、女性を対象としたセミナーを開催した。 11月開催、36名受講



【企業経営者·管理者研修】





【女性対象特別講座】

(2)企業・住民との連携による地域産業振興

地産地消の拡大が食の安全に大きく寄与するという認識の下、地元企業、飲食店、NPOなどと共に家族向けイベ ント「食と農のフェスティバル in 本庄早稲田」を、本庄商工会議所の協力を得て開催した。

参加企業・団体数:49社 市民参加者数:約3,100名









(3) インキュベーション(起業家)支援

中期計画アクションプラン【2-1 先進プロジェクトの推進とインキュベーションの促進】

・ インキュベーション機能を充実させ、プロジェクトの創出を促進する

①創業スクールの実施

・事業内容: 創業に必要な基礎知識の習得からビジネスプランの作成までを学ぶ全7回の講座

9月24日から11月19日の土曜日(10時~16時)実施

•受講生:11名

(内訳 男性4名、女性7名 30代3名、40代3名、50代3名、60代2名)

- ・実施体制:メイン講師 早稲田大学インキュベーション推進室 辰野氏 ほか中小企業診断士、税理士、弁護士、金融機関、地元起業家等
- ・成果:第3回全国創業スクール選手権(中小企業庁主催)セミファイナリストに選出
- *2017年3月末時点での創業者 9名 (昨年度受講生含む)

バッグの製造販売、印刷コーディネーター、Webデザイナー、アロマオイルマッサージ、 疑似窓の製造、ドイツパン製造販売、 マタニティペイント、技術資料作成、 グラフィックデザイナー



【二次審査の様子とセミファイナリストプランのパネル】



William Willia

②本庄早稲田ビジネスプラットフォーム※の運営

・会員数(2017年3月末現在) 26社(19社) *カッコ内は2016.3.31現在 ※ビジネスプラットフォーム・・・個人事業主や創業検討中のベンチャー企業を支援するため、 シェアオフィスを始め会員への各種情報提供や 経営相談、 会員相互の情報共有などのメニューを提供するサービス



【ビジネスプラットフォーム】

③IOC本庄早稲田セミナー&交流会の開催

- ・第1回(2016年7月21日(木)) 29名出席 講師:埼玉県産業支援課 セミナー「埼玉県による中小企業支援について」
- 第2回(2016年11月16日(木)) 29名出席 講師:ターナー法律事務所 個別相談会

セミナー「労働契約法改正

~そろそろ準備が必要かも?無期労働契約への転換制度について!~」



【交流会の様子】

・第3回(2017年3月16日(木)) 28名出席 講師: 武蔵野銀行 セミナー「銀行の活用方法や事業者の皆様への支援について」

【事業の成果・今後の展開】

創業スクールは2年目を迎えて協力機関が増えるとともに、本庄市及び上里町における創業支援事業計画に位置付けられるなど、支援の基本的な枠組みを作ることができた。受講生に対しては、イベント参加機会を提供し販路開拓を支援するほか、OB会の運営により情報提供や人脈作りを行った。

2017年度は、関係機関との連携を一層強め、地域一体となった創業支援を実現するための役割を果たしていく予定である。2年ぶりに開催した「食と農のフェスティバル」については、今年度の反省を踏まえ関係者と共にプログラムを検討していく。



3. 地域連携支援事業

【事業の目的】

行政、地元企業、大学、住民等と連携し、次世代に資する人材育成や環境保全・国際交流を図る。また、住民の自立的なまちづくり活動を支援し、本庄市・児玉郡地域の活性化、振興を推進する。

- (1)先進的まちづくり活動支援事業
 - ①本庄早稲田の杜づくり活動支援
 - ・本庄早稲田の杜づくりに取り組んでいる団体等と連携し、地域の課題解決や活性化に向けた 取組みを支援するとともに、関係団体等が主催するイベント等の企画・運営に協力した。

主催:本庄早稲田まちづくり活動勉強会 協力: 当財団ほか



【第5回 流しそうめんフェスタ】



川淵三郎塾の活動支援

早稲田大学特命教授の川淵三郎氏を招いて川淵三郎 塾の活動を支援し、本庄市と早稲田大学との連携による ウォーキング教室やスポーツ指導者講習会等開催の企 画・運営に協力した。

主催:本庄市 協力:早稲田大学、当財団



【地域連携展覧会】



【川淵三郎塾指導者講習会】

(2)地域の人材育成支援事業

- ①本庄早稲田の杜こども科学実験教室の開催
 - ・7月29日(金)「夏休み親子スーパーサイエンス教室」4教室(午前2教室、午後2教室) 参加者:72組 主催:早稲田大学本庄高等学院 共催:当財団
 - -8月3日(水)「本庄ユニラブ2016」12教室(午前5教室、午後7教室) 参加者:108名

主催:早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科、早稲田大学環境総合研究センター 共催:当財団

-12月27日(火)「冬休み親子スーパーサイエンス教室」4教室(午前2教室、午後2教室) 参加者:83組

主催:早稲田大学本庄高等学院 共催:当財団



【本庄ユニラブ2016】



【夏休み親子スーパーサイエンス教室】

②小学校環境学習の開催

・市内の小学校で環境学習授業の支援を実施し、児童の環境理解の増進に成果を上げた。

講師:早稲田大学、NPO早稲田環境教育推進機構、埼玉県、本庄市他

開催学校:6校で7回開催 延べ参加児童生徒:427名

③生涯学習活動支援

- ・子ども大学ほんじょうに実行委員として参画し、市町や早稲田大学と連携し、企画・運営に協力した。 講義10回 受講者児童:延べ652名 学園祭来場者:400名
- ④地域住民の医療や健康増進についての講演会等の開催
 - ・市民団体と連携協力し、地域医療等を考える講演会を5回開催し(延べ参加者:474名)、地域の医療や 医療制度に関する知識の普及に貢献し、地域住民の健康意識の向上を図った。

講師:東京大学医学部附属病院医師、日本大学医学部教授他



【環境学習 女掘川の環境】



【地域医療講演会】

- (3)地域環境保全事業支援
- ①本庄早稲田の杜「里山塾」2016の開催
 - ・地域の自然に果たす里山の重要性を軸にテーマごとに8回開催した。(登録者:51名) 講師:大堀 聰(早稲田大学基幹理工学部)、荒川 正夫(当財団専務理事)
 - ・「エクスカーション」を実施し、新潟県南魚沼市清水地区の生物多様性の見学やブナ林の間伐を体験した。



【里山塾 エクスカーション】



【里山塾 サツマイモ収穫】

- ②河川調査体験学習会の開催及び河川保全活動支援
 - ・藤田小学校児童による河川及び魚類調査の支援を延べ 5回実施した。

参加児童:30名(5,6年生)、主催:本庄市立藤田小学校協力:早稲田大学本庄高等学院、埼玉県(本庄県土整備事務所、環境科学国際センター)、本庄市、NPO川・まち・人プロデューサーズ、当財団



【藤田小学校総合的な学習の時間 魚類調査】

(4)国際理解·国際交流促進支援事業

- ①小学校出張国際理解学習の開催
 - ・本庄市・児玉郡地域の小学校において、早稲田大学国際教養学部と早稲田大学国際コミュニティセンターの協力のもと留学生による国際理解授業を実施した。児童が他国の文化を知り国際理解を深めるとともに、留学生が日本文化に触れる機会を設け、文化交流によりお互いの理解を深めることに貢献した。

訪問学校: 10校 延べ参加児童:612名



【留学生が自国を紹介】

②国際交流・多文化共生を促進する講座や交流会の開催

・本庄市国際交流協会の交流プログラムのクリスマスパーティーや多国籍料理教室に、早稲田大学留学生に事業を広報し、参加を募集した。今年度留学生の参加者はいないが、次年度も引き続き案内して、地域の国際理解に貢献する。

【事業の成果・今後の展開】

地域連携支援事業は、早稲田大学、埼玉県、本庄市、NPO、地域の企業などと連携し、先進的まちづくり活動支援事業、地域の人材育成支援事業、地域環境保全支援事業、国際交流支援事業を実施した。

- ・先進的まちづくり活動支援事業では、本庄早稲田駅を中心とした「本庄早稲田の杜づくり」構想の推進に協力するとともに、川淵三郎塾のスポーツイベントなどを支援し、スポーツ振興を通じて本庄市・児玉郡地域の活性化に貢献した。
- ・地域の人材育成支援事業では、子ども科学教室の開催、地域の小学校の環境学習授業の支援を実施し、児童の科学技術や新エネルギーへの興味増進、環境教育の理解増進に成果を上げ、未来を担う人材育成に貢献した。また、地域住民の健康増進事業を実施し、地域を支える人材育成に協力した。
- ・地域環境保全支援事業では、水環境再生のための取組や里山塾を通じて地域住民や児童の環境保全への理解増進に貢献した。
- ・財団が推薦者として応募した、本庄市立藤田小学校と早稲田大学本庄高等学院、NPO川・まち・人プロデューサーズが10年以上継続して行っている協働河川調査が、埼玉県主催「第18回彩の国埼玉環境大賞」の優秀賞を受賞した。財団は、関係団体の調整役として関わっており、長年の活動により元小山川の水質改善につながり、児童や高校生の環境問題に取り組む姿勢を育むなど地域の人材育成に貢献した。
- ・国際理解・国際交流促進支援事業では、早稲田大学国際教養学部と早稲田大学国際コミュニティーセンターの協力により、小学校で国際理解学習授業を開催し、児童の国際理解教育の充実に貢献した。

2017年度は、先進的まちづくり、人材育成、環境保全、国際交流等の支援事業の取り組みをさらに充実・発展させる。また、市民団体が実施する地域医療を考える講演会の支援等を通じて、自立的活動を育成・支援し、本庄市・児玉郡地域の活性化を推進する。留学生に、地域の国際交流事業に参加してもらい、相互理解を深めることに貢献します。



4. 研究教育施設管理運営事業

【事業の目的】

IOC(インキュベーション・オン・キャンパス)本庄早稲田、早稲田RPCC(リサーチパーク・コミュニケーションセンター)は、産学官連携による新事業を創出するための基盤となる中核的施設であり、地域市民やインキュベーション入居企業を含む地域企業に対して開かれた施設運営を目指し、企業セミナー等を通じた交流の促進等による施設利用の活性化に努める。

(1) IOC(インキュベーション・オン・キャンパス)本庄早稲田の運営

A・B棟は早稲田大学をはじめとした他大学・研究機関と企業などとの産学官連携による研究開発や人材育成の拠点として、V棟は新規事業や第二創業を行う企業活動の拠点施設として運営を行った。また、中小企業基盤整備機構(以下、中小機構)と早稲田大学の基本合意に基づき、中小機構よりA・B棟を借り受け、早稲田大学へ高度技術開発の拠点として貸与した。

(2) 早稲田RPCC(リサーチパーク・コミュニケーションセンター)の運営 産学官連携、地域産業の活性化等の財団の各事業を展開し、交流活動の拠点として運営した。 また、地域の人材育成や啓発活動を行う団体や企業等へ施設の貸与を行い、交流・活動拠点の場として提供 した。

【事業の成果・今後の展開】

IOC本庄早稲田のA、B棟の賃貸について、早稲田大学と共同研究を行う企業や研究機関への貸し出しを行い、産学官連携の拠点として展開を進める。



5. 環境問題支援事業

【事業の目的】

当財団が中心となり、企業、行政機関、地域が直面している環境問題のソリューションを継続的に提供するため、産学官及び海外とのネットワークを最大限に活用した体制の構築やノウハウの蓄積を行い、会員企業等からの多様なニーズにこたえる。

中期計画アクションプラン【2-3 グローバル化への対応】

- ・ 海外人材の活用や育成をし、日系企業への就職支援を進める。
- ・ 海外への販路開拓や進出

会員企業からのニーズに対応し、以下の事業に取り組んだ。

(1)パーム油・廃食油を利用した固定価格買取制度による発電・売電事業に関わる調査事業

㈱早稲田環境研究所が実施する「パーム油・廃食油を利用した固定価格買取制度による発電・売電事業に関わる調査事業」について、インドネシア原油輸送ルート検討を中心とした助言と調査支援を行う。

- ・案件名 アドバイザリー業務
- ·委託元 ㈱早稲田環境研究所
- ・契約期間 2016年12月1日から2018年3月31日まで
- ・財団への委託費 業務委託費として約50万円
- (2)インドネシアでの自動車用バッテリー再生事業の現地法人設立及び太陽光発電事業検討のための現地調査

当研究会会員企業㈱ウェーブ(本社:吹上市)の依頼により、インドネシア現地での自動車用バッテリー再生事業を行うため、BuleBird Group(大手最大タクシー会社)へのヒアリングや現地事業パートナー紹介等の支援を実施した。また太陽光発電、パーム油発電、ビルメンテナンス事業に関しても関連機関の訪問を実施して情報を収集した。

- ・訪問先 インドネシア共和国
- ・委託元 株式会社ウェーブ
- -調査期間 2016年8月7日(日)から11日(木)
- ・財団への委託費 今回の調査経費約30万円をウェーブ社が負担。

【事業の成果・今後の展開】

インドネシア共和国の事業については、ウェーブ社は、2017年1月、現地合弁法人を設立し、国営電力会社と売電契約について交渉中である。ひきつづき支援を継続する。



その他(情報提供・広報活動)

中期計画アクションプラン【2-4情報提供・サービスの拡充】

- ・ ウェブを活用した情報発信
- 会員を対象とした情報提供
- 会員間、連携・協力機関、教員などとの交流
- (1) 中小企業・小規模事業者向け補助金活用セミナーの開催(再掲)

会員に対する情報提供として、中小企業及び小規模事業者向け補助金活用セミナーを開催した。

日時 2016年10月14日(火)14時から16時30分

内容「平成28年度第2次補正予算案について」経済産業省 関東経済産業局 「ものづくり補助金申請対策~申請書作成のコツ~」(公財)埼玉県産業振興公社 「挑戦支援資本強化特例制度(資本性ローン)について」日本政策金融公庫 「経営革新計画について」埼玉県北部地域振興センター本庄事務所

参加者数 90名

協力 経済産業省関東経済産業局、(公財)埼玉県産業振興公社、 日本政策金融公庫、

本庄商工会議所、行田商工会議所、熊谷商工会議所 寄居町商工会、小川町商工会、上里町商工会、 埼玉県北部地域振興センター本庄事務所

- (2) 財団保有媒体による情報発信
 - ①ホームページ
 - ②フェイスブック(財団・創業スクール)
 - ③ツイッター
 - ④メールマガジン(オープンイノベーションネットワーク・IOC本庄早稲田)
- (3) 交流会
 - ①オープンイノベーションネットワーク交流会(2016年6月29日) 61名出席
 - ②研究部会交流会 *ワーキンググループまたはプロジェクト関係者の交流会
 - ・食と農研究部会(2017年3月22日) 6社11名出席
 - ③IOC本庄早稲田セミナー&交流会(再掲)
 - •第1回(2016年7月21日(木)) 29名出席
 - ·第2回(2016年11月16日(木)) 29名出席
 - •第3回(2017年3月16日(木)) 28名出席

【事業の成果・今後の展開】

初めて開催した補助金説明会は、多数の企業から参加があり好評であった。今後も同様の企画を随時 開催するとともに、多様な媒体を活用した情報提供や広報活動を実施して、地域における「情報発信基地」 となることを目指す。

1. 産学官研究推進事業

埼玉県や本庄市など自治体、早稲田大学等県内外の大学、地域産業、市民と協働し、埼玉県北を中心とした北関東地域の研究拠点を目指す。先進的なまちづくり「本庄モデル」を構築するため、早稲田大学を中心とした大学、研究機関の知を地域産業界と繋げ、産学官連携による共同研究、プロジェクトを展開した。

(1) 産学官連携共同研究の企画

今年度は実施に至りませんでした。

(2) 産学官連携共同研究の実施

今年度は実施に至りませんでした。

(3) 本庄早稲田オープンイノベーションネットワークの活動と展開

2014年に設立した新研究会組織「本庄早稲田オープンイノベーションネットワーク」 の各研究部会において活動を展開した。会員等への情報発信については、メールマガジ ン「本庄オープンイノベーション通信」を月2回定期配信するとともに、必要に応じ訪 問等による広報を行った。

【組織体制】

役職名 氏名 (所属) 会 長 山川 宏(早稲田大学名誉教授) 副会長 天田 清之助 (サンデンホールディングス㈱特別顧問) 荒川 正夫(財団専務理事) 副会長 勝田 正文(早稲田大学教授) 副会長 副会長 藤間 憲一(㈱オキナヤ代表取締役社長) 副会長 福田 秋秀 (㈱エフテック取締役最高顧問) 副会長 狩野 輝昭(本庄商工会議所会頭) 部会長 大聖 泰弘(早稲田大学教授) 小野田 弘士(早稲田大学大学院教授) 部会長 堀口 健治(早稲田大学名誉教授) 部会長 嶋根 繁 (財団アドバイザー) 顧問

≪次世代地域・モビリティ研究部会≫

 役職名
 氏名(所属)

 部会長
 大聖 泰弘(早稲田大学教授)

 主 査
 草鹿 仁(早稲田大学教授)

 また
 「たい川」 エロア(他)」 ここは後ろ

参与長谷川 正郎 (㈱リテラ技術本部生産技術部長)参与藤井 暢純 (サンデンホールディングス㈱執行役員)参与古澤 好記 (㈱エフテック取締役兼上席執行役員)

≪環境・エリアマネジメント研究部会≫

役職名 氏名(所属)

部会長 小野田 弘士(早稲田大学大学院教授)

主 査 後藤 春彦(早稲田大学教授) 主 査 高口 洋人(早稲田大学教授)

参 与 池田 清造 (㈱ベイシア興産代表取締役社長)

参 与 佐藤 義孝(日本電気㈱関東甲信越支社 広域営業推進部長)

参与中澤康(ミサワホーム建設㈱顧問)

≪食と農研究部会≫

役職名 氏名(所属)

部会長 堀口 健治(早稲田大学名誉教授)

参 与 荒木 和樹 (㈱味輝代表取締役、本庄早稲田食の安心&安全・いちばの会)

参 与 高橋 祐介 (NPO法人本庄ファンクラブ代表理事)

参 与 山川 裕夫 (㈱T. M. L代表取締役社長)

現在の会員数 (2017年3月31日現在)

[賛助会員] 20 団体 [正会員] 64 社 [個人会員] 7 名

[1) 視察:海外展開支援事業

ベトナム人材活用調査研修ツアー (ハノイ訪問プログラム)

目的:日本と友好関係が深く、豊富な労働力もあり日本企業の製造拠点として注目されているベトナム・ハノイ市近郊において、有力な現地中小製造業への訪問や、省庁をはじめとする関係機関との懇談、日本での就業を希望する理工系・文系第二新卒者との交流等を通じて、現地進出に必要となる情報を収集することで、国際展開における支援サービスや資源活用法ならびに、パートナーやグローバル人材を得る機会とする。

期間:2016年11月15日(火)~11月18日(金)

訪問国:ベトナム社会主義共和国 ハノイ市周辺

参加者:東京千曲産業㈱、㈱ニッポンハレー、㈱リクロスエクスパンション、

㈱名取製作所 各社1名(計4名)

訪問先:ベトナム政府計画投資省

VCI 人材戦略研究所・ハノイ日本アカデミー

地元企業 4 社 T&C VIETNAM COMPANY LIMITED.

MINH QUANG TRADING AND INDUSTRIES CO., LTD LONG THANH PRECISION MECHANICS JOINT STOCK COMPANY.

HONEST VIETNAM CO., LTD.

その他市内関連施設

成果概要:行政機関、企業(製造業)、高度人材育成機関を訪問し、中小企業のグローバル化ならびに、高度人材の確保に関しての有意義な情報収集を行った。特に、産業6セクタ(電子、農業用機械、農水産物加工、造船、環境・省工ネ、自動車・自動車部品製造)の重点支援策によって法人設立数が急増し、融資制度の優遇措置により新たな裾野産業が成長しつつあることが確認できた。また日系企業でノウハウを習得した若手の技術者が自ら起業しているケースが急増している。今後、日系企業の技術支援や資本参加が期待されており、現地政府支援策の立法化も踏まえて、生産拠点の選択肢として有望である。人材に関しては、親日国家として若者の日本企業への就業意欲が強く、勤勉な国民性に加えて高度教育を受けた第二新卒者が注目されており、人材確保やグローバル化に悩む日本の中小製造業にとって、一つの選択肢になりうる。VCI ハノイアカデミーは約10年の歴史があり、当校との連携により、ツアー参加企業の2社が4名を採用するに至ったことは今回の大きな成果であった。

2)展示会

①FOOD TAIPEI 2016 (台北国際食品見本市)

[日時] 2016年6月22日(月)~25日(土)10:00~18:00(最終日は16時まで)

[概要] 主催: Taiwan External Trade Development Council(TAITRA)

会場:台北世界貿易センター南港展示ホール

[出展企業・団体] (財団・早稲田大学関連のみ記載)

当財団

会員企業 2 社 ㈱T. M. L、高橋ソース㈱

[実施内容] 中国本土はもとより、日本、マレーシア、香港、フィリピン、シンガポール、韓国、アメリカ、タイ、インドネシアなど世界各国から多くのバイヤーが集まったアジア最大規模の食品見本市である。展示を行うほか、台湾経済部台日産業連携推進オフィスの調整により、百貨店等3社のバイヤーを訪問した。今回をきっかけに、高橋ソース㈱は台湾への海外展開を決定し、今後1年をめどに商品プロモーションなどを実施する予定。また、㈱T.M.L も今後は海外展開に力を入れていく予定である。

②ウェルネスフードジャパン 2016

[日時] 2016年8月2日 (火) ~4日 (木) 10:00~18:00 (最終日は17時まで)

[概要] 主催:ウェルネスフードジャパン実行委員会

共催:「日本を健康にする!」研究会

会場:東京ビッグサイト

[出展企業・団体] (財団・早稲田大学関連のみ記載)

当財団

会員企業 5 社 前田食品(㈱、井上スパイス工業(㈱、お茶っこサロン一煎 (㈱T. M. L、高橋ソース(㈱

[実施内容] 健康・機能性食品の見本市という色彩はそれほど強くはなく、スポーツ 関連の商材が目立つ展示会であり、来場者におけるバイヤーやメディアの割 合が高いように感じられた。出展各社の商品展示のほか、相互のコラボレー ション企画として試食品を開発し提供した。先に出展したフード台北 2016 の様子とともに財団の支援メニューをわかりやすく展示することにより、5 社の入会を得ることができた。

③彩の国ビジネスアリーナ2017、産学連携フェア

[日時] 2017年2月1日(水)~2日(木)10:00~18:00(2日は17時まで)

[概要] 主催:産学連携支援センター埼玉、(公財)埼玉りそな産業経済振興財団会場:さいたまスーパーアリーナ

[出展企業・団体] (財団・早稲田大学関連のみ記載)

早稲田大学環境総合研究センター、当財団

[実施内容] 産学連携フェアゾーンにおいて、本庄早稲田オープンイノベーション ネットワークの活動紹介として、以下の展示・発表等を行った。

「埼玉県立児玉白楊高校スマート農業プロジェクト」

プロジェクトを紹介するパネルと、高校生が企業の支援を得て企画・ 製作した、スマートフォンと連動した植栽への水やりシステム「水やり 君」のデモンストレーションを展示。同会場で開催される「技術シーズ 発表会」で、高校生がプレゼンテーションを行った。

「農業 ICT 普及支援」

財団が実施した、園芸施設の環境制御 DIY セミナー及びワークショップを紹介するパネルと環境制御装置を展示。

「新商品開発におけるマッチング事例」

財団が実施した、「社会福祉法人のニーズ」と「スポーツ用品製造企業の技術」のマッチング事例を紹介するパネルと、開発した商品(車いす用レインコート)を展示。

「中小企業向けべトナム高度人材採用支援事業」

財団が実施したベトナム人材活用調査研修ツアー(ハノイ訪問プログラム)を紹介するパネルを展示。

3)公的資金活用支援

①各種補助金申請:採択件数1件

【採択】

・平成 27 年度補正 中小企業等の省エネ・生産性革命投資促進事業費補助金 (楠原輸送㈱)

「高効率 LED 照明の導入による省エネルギー事業」として次の内容を実施。

(大黒ふ頭) 置き換え対象本数 955 本

税抜き投資金額(補助前)8,268,800円

補助金額 1,877,667 円

年間削減コスト 1,185,130円

投資回収年数 6.0年

(東扇島) 置き換え対象本数 737 本

税抜き投資金額(補助前)6,106,890円

補助金額 1,448,500 円

年間削減コスト 1,196,191 円

投資回収年数 3.7年

【不採択】

·平成28年度沖縄県産業振興公社戦略的製品開発事業

(㈱BUPPIE RECORD、早稲田大学大学院環境エネルギー研究科、 埼玉県産業技術総合センター、当財団)

早稲田大学の「ソフトスチーム技術」を使用し、沖縄県産食品「海ぶどう」の生の食感ならびに外観、機能性を保持したまま、冷蔵保存が可能となる製品の開発を実現する。本研究により冷蔵長期保存や輸送が可能になれば、食材としての利便性が大きく高まるため、個人・事業用の流通量が拡大するとともに、ニーズがありながらも対応できていなかった国内寒冷地や海外への販路の拡大が見込まれる。補助申請額22,482,000円

・平成28年度省C02型社会の構築に向けた社会ストック対策支援事業

(ケイアイスター不動産㈱、㈱早稲田環境研究所、当財団)

地域に豊富にありながらも未利用資源である太陽エネルギーと温度差エネルギーを活用し、街区で井水のエネルギーを共有するインフラシステムの導入により安価で効果的な熱源システムを構築することで住宅の省 CO2 化を図る先進的な住宅モデルを企画する。合わせて、地域の県産材の活用やエネルギーマネジメント

サービスを地元企業などと連携しながら構築することで、地域経済へも貢献するような事業モデルを検討し、当本庄エリアだけでなく他地域へも広く普及するような地産地消型の事業モデルの構築を目的とする。補助申請額 16,733,333 円

・平成28年度埼玉県新技術・製品化開発費補助金

(東京ロボティクス㈱、㈱菜根譚農園、当財団)

「水耕栽培の収穫作業を自動化するロボットシステムの開発」をテーマに、自律分散的に刈り取り・運搬作業を行わせるというコンセプトで小型の移動型ロボットを知能化し、コストダウンや高い汎用性と拡張性を実現して2018年4月の製品販売を目指す。補助申請額20,000,000円

· 平成 28 年度埼玉県次世代新技術 · 新製品開発支援事業費補助金

(お茶っこサロン一煎、当財団)

「狭山茶のお茶の実から採れる「お茶の実油」の搾油製造技術の確立」をテーマに搾油工程を構築、成分を調査し、健康食品や美容化粧品などの製品開発を目指す。補助申請額 5,080,000 円

・平成 28 年度 JAPAN ブランド育成支援事業 (戦略策定支援事業)

(お茶っこサロン一煎、当財団)

「狭山茶」から採れるお茶油のブランド構築事業として、お茶の実から採れる「お茶油」を地域の資源として活用し、健康食品や美容化粧品などの製品企画を行い、日本産茶油という新分野を構築して海外販路の開拓・展開を目指す。補助申請額1,699,000円

- ・平成28年度埼玉県産学連携研究開発プロジェクト補助金(ナノカーボン分野) (ナノファエンタープライズ㈱、㈱ゼタ、東京工業大学、当財団) 「高捕集効率を実現する繊維径の最小化技術を用いたナノファイバー応用製品 の開発」をテーマに、「捕集効率」が高く「圧力損失」の少ない、繊維径が50nm、 捕集効率99.9パーセント、圧力損失が10パスカルのシートを作製し、2018年4 月の新製品販売を目指す。補助申請額25,000,000円
- ・平成28年度埼玉県産学連携研究開発プロジェクト補助金(医療イノベーション分野) (㈱名取製作所、(国研)産業技術総合研究所、当財団)

「補装具による運動性能を飛躍的に高める革新的センシング立体造形システムの開発」をテーマに、トップアスリート向け、競技者・競技入門者向け、一般ユーザー向けに構造設計の最適化、機能設計の最適化、義足のトータルシステム化を実現し、ユーザーのステージに応じた義足の提供を目指す(2019 年)。補助申請額 25,000,000 円

【その他】

・革新的ものづくり・商業・サービス開発支援事業(ものづくり補助金)平成 28 年度第 2 次補正予算への応募支援(18 件)

②中小企業・小規模事業者向け補助金活用セミナーの開催

関係機関と連携・協力し、中小企業及び小規模事業者向けのセミナーを開催した。

[日時] 2016年10月12日(水)14:00~16:30

[内容]「平成28年度第2次補正予算案について」経済産業省 関東経済産業局 「ものづくり補助金申請対策~申請書作成のコツ~」

(公財) 埼玉県産業振興公社

「挑戦支援資本強化特例制度(資本性ローン)について」日本政策金融公庫 「経営革新計画について」埼玉県北部地域振興センター本庄事務所

[参加者数] 90 名

[協力] 経済産業省関東経済産業局、(公財) 埼玉県産業振興公社、

日本政策金融公庫、本庄商工会議所、行田商工会議所、熊谷商工会議所、 寄居町商工会、小川町商工会、上里町商工会、埼玉県北部地域振興センタ 一本庄事務所

4) 広報

①メールマガジン

配信実績:毎月中旬と下旬に配信(月2回)、臨時の配信については適宜。

メールマガジン会員数(2017年3月31日現在)612名

配信数 (2016年4月10日~2017年3月29日現在) 29回

*会員登録は、会員をベースに、過去に取引のあった企業団体を含む。ホームページのメルマガ登録フォームより、メルマガの登録と解除が可能。

②ホームページ: http://www.howarp.or.jp/

「イベント&ニュース」において、財団の最新の活動内容をリアルタイムに発信。 過去の活動事績についても同メニューから閲覧が可能。

③Facebook: https://www.facebook.com/honjowasedaRP セミナーやイベントをはじめ、様々な情報や写真を担当者の視点からリアルタイムに紹介。

5) 各研究部会の活動

- ◆次世代地域・モビリティ研究部会◆
- ①研究部会セミナー

【出前セミナー】

日 時:2016年12月15日(木)13:45~17:00

講 座:「大型・中空・薄肉の車体用アルミニウム合金鋳物の開発事例の紹介」

講 師:早稲田大学 創造理工学部・研究科 教授 吉田 誠 氏

会場:㈱エフテック 芳賀テクニカルセンター(栃木県芳賀町)

受講者数:50名

【講演会】早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科公開講演会

日 時:2016年11月22日(火)14:00~16:30

講 座:「次世代自動車に関する将来展望」

講 師:早稲田大学 次世代自動車研究機構長

前環境・エネルギー研究科長 教授 大聖 泰弘 氏

講座:「寒冷地用及び自動車用ヒートポンプ開発の重要性と課題」

講師:早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科長

早稲田大学環境総合研究センター所長 教授 勝田 正文氏

講 座:「地域におけるエネルギーシステムの現状と展望」

講 師:早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科教務主任

准教授 小野田 弘士 氏

会場:早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター(埼玉県本庄市)

受講者数:117名

②研究室訪問 *環境・エリアマネジメント研究部会と合同実施

【早稲田大学創造理工学部環境資源工学科研究室訪問】

日 時:2017年1月10日(火)15:30~17:00

内容:(1)55号館 所研究室訪問 (2)61号館 材料実験室見学

案内役:早稲田大学創造理工学部環境資源工学科

大和田 秀二 教授、所 千晴 教授

早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科

小野田 弘士 准教授

会場:早稲田大学西早稲田キャンパス(東京都新宿区)

参加企業:1社4名 ㈱エコ計画

③視察 *環境・エリアマネジメント研究部会と合同実施

【リコー環境事業開発センター施設見学会】

日 時:2016年11月25日(金)13:30~16:00

内容:(1)マシンビジョン技術(ドローン、モビリティ)

(2)環境技術・リユースリサイクル技術(木質バイオマス利活用、室内光環境発電素子、廃プラスチック油化)

場 所:㈱リコー リコー環境事業開発センター(静岡県御殿場市)

参加企業:5社7名

(一社) さいしんコラボ産学官、(㈱高脇基礎工事、(㈱早稲田環境研究所 エコデザイン(㈱)、早稲田大学

④次世代空調技術コンソーシアム

第15回次世代空調技術コンソーシアム

日 時:2016年10月25日(火)14:00~16:00

内 容:(1)「着霜低減化技術を用いたデフロストフリー熱交換器の開発」 大久保教授 玉川大学

(2)「車両空調用コンプレッサーの駆動トルク推定」サンデン㈱

場 所:早稲田大学西早稲田キャンパス 会議室 60-206

出席者:早稲田大学、玉川大学、カルソニックカンセイ(㈱、サンデン(㈱、 (㈱ケーヒン、旭硝子(㈱)

第16回次世代空調技術コンソーシアム

日 時:2017年3月3日(金)14:00~16:00

内 容:(1)「磁気ヒートポンプ」

早稲田大学 べ客員教授

(2)「カルソニックカンセイにおける CAE 活用の現状と今後」 カルソニックカンセイ(株)

場 所:早稲田大学本庄キャンパス B202

出席者:早稲田大学、カルソニックカンセイ㈱、サンデン㈱、

≪成果と展開≫

2016 年度は、技術探索及び技術交流支援として出前セミナー、施設見学、研究室訪問を行った。また、国や県等の競争的資金獲得に向けたセミナーや申請支援、アドバイス等の個別相談を行った。様々な交流を機会として、大学・研究機関等との継続的な協力関係の構築や共同研究や競争的資金獲得等に向けた支援につなげていく。

- ・出前セミナーは、早稲田大学 吉田教授による車体用足回りダイカストについての 講演や講師と社員による自社課題についての意見を取り交わす等、技術者との専門的 な意見交換や交流を深めることができた。
- ・視察は、環境エリアマネジメント研究部会と合同で「リコー環境事業開発センター施設見学会」を実施し、当センターのマシンビジョンシステムやバイオマス発電施設等の環境リサイクル技術を見学し、㈱リコー技術者と意見交換を行いながら今後の連携に向けた協力を得ることができた。
- ・研究室訪問は、早稲田大学 創造理工学部 環境資源工学科 大和田教授、所教授 の研究室を訪れ、環境リサイクル関連の技術相談を行い、来年度の企業との共同研究 に向けて議論を行った。
- ・関係機関との協力については、群馬大学機器分析センターと秩父市が新たに賛助会員として参画した。ものづくり企業における様々な分析相談等への対応と秩父市の観光資源や市内企業との新たな連携に向けて協力関係を構築していく。
- ・競争的資金に関する支援のうち、当財団が実施してきたサポイン事業は平成27年度で終了し、本年度から5年間続くフォローアップ調査の対応及び成果事例集作成に向けた事務的支援を行った。また、会員企業に対する国や県等の競争的資金獲得に向けた申請支援・アドバイスを行うほか、会員である金融機関が主催する「ものづくり補助金相談会」での個別相談にも対応した。さらに、関東経済産業局や埼玉県、埼玉県産業振興公社、商工会、商工会議所等と連携し、「ものづくり補助金」を中心とした「補助金活用セミナー」を開催した。

環境・エリアマネジメント研究部会◆

- ①研究室訪問 *次世代地域・モビリティ研究部会と合同実施
- ②視察 *次世代地域・モビリティ研究部会と合同実施
- ③プロジェクト

【先進スマートハウス Made in Honjo の建設・普及】

早稲田大学等との産学官共同による、井水の熱エネルギーを利用したハイブリッド型地中熱システムの開発や太陽熱システムの住宅利用などを企画立案。本庄エリアでのモデルルーム建設を目標に補助金申請を行った。また、グッドデザイン賞への応募や展示会への出展など普及に向けて積極的な取り組みを行った。

実施体制:ケイアイスター不動産㈱、早稲田大学小野田研究室、㈱早稲田環境研究所

【インドネシアおよび日本国内での再生可能エネルギー事業化】

(㈱ウェーブが計画する、インドネシアでの自動車部品リサイクル・太陽光発電事業ならびに日本国内でのバイオマス発電事業について、財団が中心となり事業化可能性の検証と海外事業パートナーの紹介等を実施した。事業検討に関しては、インドネシア現地での調査や関連設備企業との調整を行い、事業化に際しての具体的な事業計画を提案した。

実施体制:㈱ウェーブ、早稲田大学小野田研究室、㈱早稲田環境研究所

≪成果と展開≫

2016年度は、継続課題である本庄早稲田の街づくりに関連し、ケイアイスター不動産㈱と取り組んでいる地産地消型スマートハウスのモデル街区建設を具体化するため、助成金申請やグッドデザイン賞の応募等を積極的に展開しその普及に貢献した。

さらに、エネルギー分野の研究開発事業に加え、会員企業の既存設備の更新や省エネ化の側面から、産学官連携で支援を実施することができた。また、エネルギー分野と IoT、ロボット、農業との融合技術へのニーズを基に、試験的なプロジェクトを実施し、財団を中心にその支援研究開発体制を整備、今後の様々なニーズに対応することが可能になった。公的助成金の実績では、財団が支援し楠原輸送㈱が申請した平成 27年度補正 中小企業等の省エネ・生産性革命投資促進事業費補助金が採択され、エネルギー需要が大きく、かつ効率化が進んでいない産業分野において具体的な成果を得るとともに、支援の方向性を検証することができた。

2017 年度も継続して、セミナーによる先端情報の提供を進めながら、継続案件であるスマートハウス・街区のモデル化検討と建設事業に加え、新たに未利用バイオマス (パーム油) の発電事業化、物流産業や農業におけるエネルギー効率化・再エネ・IoT の導入について産学官連携で取り組む。さらに、新技術開発や活動で得られた事業化 案件等については、公的助成金を活用し、他地域での普及や海外への技術移転に繋げる。

食と農研究部会◆

①研究部会セミナー

【施設園芸環境制御DIYセミナーおよびワークショップ】

日 時:セミナー 2016年8月31日(水)18:00~19:30

ワークショップ①2016年10月1日(土)9:30~19:00

②2017年3月25日(土)10:00~18:30

見学会 2016年11月28日(月) 13:30~16:30

内 容:(1)セミナー

「県試験研究機関の取組みについて」埼玉県農業技術研究センター

①果菜類の ICT を利用した生産技術開発

②県施設野菜における UECS 統合環境制御による高効率安定生産技術の確立「オープン&低コスト環境制御システム普及への取り組み」(㈱ワビット

「桶川市大熊農園 農業 ICT への取り組み」大熊農園

(2) ワークショップ

低価格シングルボードコンピュータ「Raspberry Pi (ラズベリーパイ)®」で動作する、汎用の環境制御ソフトウェア UECS-Pi Basic を用いてセンサノードを制作し、動作確認まで行った。

(3) 見学会

大熊農園のトマトハウスにおける環境制御システム導入事例を見学

場 所:早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター

見学会は大熊農園(埼玉県桶川市)

受講者数:セミナー 22名 ワークショップ(合計) 9名 見学会 9名

【埼玉県情報サービス産業協会ビジネス交流部会セミナー (28 年度 SSU IT ストロングセミナー) における講演】

日 時:2016年11月11日(金)14:00~17:00

場 所:大宮ソニックシティ会議室(埼玉県さいたま市)

内 容:「農業 ICT 化の現状と財団の取り組み」

参加企業:㈱アーベルソフト、(有)エイ・ケイ・システム、AGS(株)

コンピューター・システム・エコー㈱、サイボウズ㈱、サンエイ・ソフトウエア・ジャパン㈱、CSS クレセント㈱、蓼科情報㈱、㈱ティー・エス・イー、㈱日東テクノブレーン、㈱富士通エフサス、ミツイワ㈱

②プロジェクト

テーマ:農業 ICT 化

【児玉白楊髙校スマート農業プロジェクト第2フェーズ】

埼玉県北における次世代農業生産者・産業人材の育成ならびに地域産業の振興を推進するため、早稲田大学国際情報通信研究センター(GITI)浦野義頼名誉教授による技術指導を含めた産学官連携により、農業分野でのICT活用をテーマとしたプロジェクトを2015年度に立ち上げ、児玉白楊高校環境デザイン科の生徒を主体に企業の支援を得ながら、半自動での遠隔灌水を可能とするデモシステム「水やり君」を作り上げた。

2016年度においては、児玉白楊高校における正規のカリキュラムの一環 (3年次課題研究)として新工業棟前庭の植栽への実装に向けて、環境デザイン科と電子機械科の生徒たちが主体的に取り組んだ。同時に上記デモシステムの製品化について、企業と共に検討した。

〈目的〉

農業・工業系専門高校生徒による農業分野でのICTを活用した課題研究を産学官で支援することで、次世代農業生産者・産業人材の育成と、ビジネスチャンス構築を通じた地域産業の振興を目指す。

〈概要〉

2016 年度は、児玉白楊高校 3 年次課題研究の一環として、引き続き環境デザイン科と電子機械科の生徒たちが、新設された新工業棟の前庭における ICT 装置の実装に取り組んだ。具体的には環境デザイン科の生徒たちが考えたコンセプトである「歴史と風土を未来につなぐ庭」に基づき、企業の支援を受けながら造園に取り組むとと共に、電子機械科の生徒たちが 2015 年度に開発したデモシステムを中心にセンシング技術を組込んだ。実装にあたっては 14 社の地元企業が技術指導や資材の提供を行った。

この庭園は児玉白楊高校文化祭および彩の国ビジネスアリーナ 2016 にて展示が行われた。また、企業との連携が高く評価され、「埼玉県キャリア教育実践アワード 2017」において「地域密着型の産学官連携「教育支援」プロジェクト "ACTION Re-ACTION EDUCATION"~ICT を活用した近未来型庭園を創る!高校生のアイディアが未来の農業の在り方を変える~」と題して、優秀賞を獲得した。

http://www.pref.saitama.lg.jp/a0001/news/page/170127-11.html 受賞対象企業は以下の通り。

(㈱グローバルソフトウェア※、(㈱丸浜設計舎、(㈱ウェーブ※、(㈱やまのは、児玉設備工業、藤原産業㈱※(※は 0IN 会員企業)

〈製品化に向けての取り組み〉

2015年に日経新聞に掲載された記事をきっかけに、藤原産業㈱から製品化の打診があり、検討を行った。残念ながら開発コスト面から製品化は見送られたものの、プロジェクトへの資材提供などの支援が行われることとなった。

また、別途、不動産企業から分譲マンションにおける屋上庭園管理に上記半自動遠隔 灌水装置「水やり君」設置の打診があり、現在検討中である。

【農工福連携による農業従事者の働き方リデザイン プロジェクト(仮称)】

サイボウズ㈱が開発したクラウド型データベース Kintone を使用し、㈱ワビット開発による環境計測システム UECS-Pi と連携させた生産支援システムを、障害者の就労を推進している埼玉福興㈱の業務改善に活用し、農業従事者の多様な働き方改革に向けての実証支援を行う。

〈目的〉

- ICT の活用による農業従事者の働き方改革
- GAP 導入による農産物の信頼性向上
- 広域連携が可能なプラットフォームの確立

〈概要〉

1. 環境計測とクラウド型 DB 連携による農業生産システムの構築

環境計測・制御をクラウド型データベースと連携させることで作業の合理化や生産 過程の見える化を進め、効率的な農業生産システムを確立させる。また複数の農業法 人同士が連携できるプラットフォーム形成を促進する。

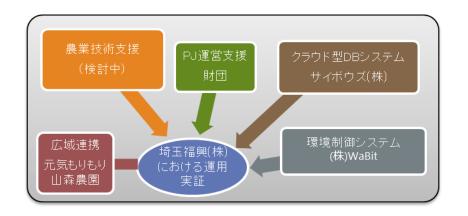
2. 汎用性の高い安価な GAP 運用支援システムの実証

効率的に生産履歴情報を記録・活用することでトレーサビリティの導入やGAPへの対応が可能となり、差別化、販路の拡大、適切な危機管理対応、信頼性の向上が可能となる。

3. 多様性のある人材育成

生産過程の見える化により障害者を含む多様な人材が働きやすい環境を、カスタマイズにより構築する。

〈実施体制〉



〈活動〉

(1) 埼玉県 GAP セミナー出展

日時:2017年3月17日(金)10:00~16:15

出展企業:サイボウズ㈱、㈱ワビット

(2)第1回 ワーキンググループ

日時:2017年3月22日(水)14:00~17:00

参加企業: サイボウズ(㈱、(㈱ワビット※、埼玉福興(㈱、㈱元気もりもり山森農園、 (㈱栗原弁天堂※、埼玉県本庄農林振興センター(※は0IN会員企業)

テーマ:地域ブランド・地産地消推進

【Saitama-Resource プロジェクト】

県内企業による優れた農産加工品をコンセプトメイキングと併せてブランド化し、埼 玉における新たな切り口の名産品として取りまとめ国内外の展示会で展開するとともに、 参加企業間のコラボレーションを仲介するなどの支援を行った。

(1)展示会出展

FOOD TAIPEI 2016 (台北国際食品見本市) *詳細は前掲 ウェルネスフードジャパン 2016 *詳細は前掲

(2) ブランド化支援

参加企業:会員企業4社 ㈱T.M.L、お茶っこサロン一煎、三州製菓㈱、㈱大慶堂

≪成果と展開≫

2016 年度は中期計画に基づき大きく分けて三つのテーマ (1) 農業の ICT 化、(2) 地域ブランド、地産地消推進、(3) 海外展開支援に取り組んだ。

(1)においては昨年度立ち上げた「埼玉県立児玉白楊高校スマート農業プロジェクト」の第2フェーズが高校の正規カリキュラムの一環として実施された。昨年度の生徒たちが企業の支援を得て作り上げた半自動遠隔灌水装置「水やり君」を軸に、新工業棟前庭に ICT 技術を盛り込んだ未来型造園を作り上げる試みである。地元企業を中心に14社が協力したこのプロジェクトは「埼玉県キャリア教育実践アワード2017」において優秀賞を授賞した。

このプロジェクトからの派生案件として、工具を扱う商社から遠隔灌水装置の製品化の打診があり、検討を行った。また、不動産会社からも分譲マンションの屋上庭園への設置について打診があるなど、企業からの関心を得ている。来年度はコストや知財面での課題を整理した上で、引き続き製品化に向けて検討したい。

また、少子高齢化による農業従事者の減少への対応など、農業分野での課題解決に ICT 技術が有効と考えられることから、特に生産工数を必要とする施設園芸における環境制御技術の導入を検討した。これまで販売されている環境制御システムはオランダ企業の技術の輸入などにより、非常に多額の初期コストがかかることから普及に至っていない。そのため、国産の汎用通信規格であるユビキタス環境制御システム(UECS: ウエックス、Ubiquitous Environment Control System)を採用し DIY で安価にキットを提供している(㈱Wabit および埼玉県農業技術研究センターと連携し、セミナーやワークショップを開催した。参加者数は少ないものの神奈川県や栃木県、群馬県などから高い意識をもつ農業生産者が集まり、セミナー修了後も引き続き相互に連絡を取り合いながら ICT 化に取り組んでいる。

また、埼玉県情報サービス産業協会ビジネス交流部会セミナーにおける講演をきっかけに、農業従事者における課題解決に向けた生産工程のICT化を、サイボウズ㈱および㈱ワビットとともに検討。サイボウズ社が開発したクラウド型データベースKintoneを、ワビット社の開発による環境計測システムUECS-Piと連携させることで、現在東京オリンピックの準備に関連※して普及の必要性が指摘されている農業生産工程管理(GAP: Good Agricultural Practice)の運用にあたり、生産現場に合わせたカスタマイズができる安価な生産管理システムが構築できる可能性が明らかになった。そのため、2014年度の農福連携ネットワークに参加し、上記ワークショップにも参加していた埼玉福興㈱の生産管理に活用することで、農業従事者の多様な働き方改革の実証支援を行うとともに事業化を検討するワーキンググループを立ち上げた。

なおプロジェクトに参加する㈱元気もりもり山森農園における上記システムの導入 事例は、3月24日に開催された内閣官房日本経済再生総合戦略本部第6回未来投資会 議において報告されている。

- (2)地域ブランド、地産地消推進としては、上述の通り国内外の展示会への出展にあたってSaitama-Resource(サイタマリソース)と名付けた共通のデザインコンセプトを設定し、上位のイメージを重ね合わせることで、製品個別の陳列展示にとどまらないセレクトショップ的なイメージを持たせることに成功した。結果として複数の参加企業から継続的にブランド化および海外展開に向けての支援依頼を得ると共に、複数の来場企業の0IN会員入会およびブランド化支援依頼を獲得した。
- (3) 海外展開支援としては、FOOD TAIPEI 2016 への出展にあたり、台湾経済部(経産省に相当)の下部団体にあたる台日産業連携推進オフィスと連携。現地における企業マッチングを依頼したことにより、以後も相互に企業間のマッチングを行う関係を築くことができた。現在もこのルートを通じて農産物や加工食品の輸出案件が動いている。

※東京五輪での食材調達基準には GAP 認証が条件付けられる予定

◆くらしと健康研究部会◆

部会立ち上げの準備として、次のことに取り組んだ。

【出前セミナー】

日 時:2016年4月27日(水)、5月17日(火)13:30~15:00

講 座:「高齢者の転倒防止と健康維持について」

講 師:埼玉県立大学 保健医療福祉学部 理学療法学科 教授 田口 孝行 氏

会場:社会福祉法人城南会特別養護老人ホーム しらさぎ(埼玉県さいたま市)

受講者数:75名(2日間の合計)

【社会福祉法人ニーズと企業技術のマッチング】

通気性が高く使い勝手の良い車いす用雨具を求めている社会福祉法人((社福)城南会)とスポーツウェア製造会社(㈱カネマス)の技術(はっ水生地)をマッチングし、車いす用雨合羽の開発を支援した。彩の国ビジネスアリーナで展示。なお、本製品の開発については、埼玉県第6回渋沢栄ービジネス大賞 ベンチャースピリット部門の大賞を受賞した。

【農業者の健康調査】

昨年度実施した後期高齢者医療費分析により、農業従事者は非従事者よりも医療費が少ない(H26 年間医療費の差は18万円程度)ことが判明した。この結果を受け、農業従事者の実態調査をおこなった。

方 法:アンケート調査

実施日:2月、3月

対象者: JA 埼玉ひびきの農業協同組合員(本庄及び児玉営農センター) 3,879 人

本庄1~4丁目及び駅南1~2丁目の住民約1,900世帯

実施者:早稲田大学 持続型食・農・バイオ研究所 農業者の健康調査班

(責任者・早稲田大学政経学術院名誉教授・堀口健治、社会科学総合学術院教

授・弦間正彦)

(4) 成果発表

当該事業や本庄早稲田オープンイノベーションネットワークでの活動の成果発表については、各事業別に記載してあるので、当項目での記載は省略する。

2. 地域産業活性化支援事業

県北部地域における産業支援拠点として、地域産業の経営基盤を強化し、新たな産業の 創出を促進するため、地域の特徴を活かした産業支援策を展開した。

(1) 地域産業人材育成

産学官連携のパートナーである地域企業の経営基盤の強化を図るため、「本庄早稲田塾」 を開催し、人材育成を支援した。

① 企業経営者・管理者研修

管理監督者を対象とした研修会を開催した。

日程	内容・講師	受講者数
6 H 20 H (Jk) . 20 H (Jk)	新任管理監督者研修	20 💆
6月28日(火)・29日(水)	ミッション代表取締役 田中久男 氏	29 名

② 中堅社員·専門研修

中堅社員及び実務担当者を対象とした研修会を開催した。

日程	内容・講師	受講者数
7 H 12 H (→k)	IS09001 内部監査員 2015 年版移行研修	9.4 夕
7月13日(水)	中島技術コンサルティング事務所代表者 中島俊作 氏	34 名

9月14日(水) 企業会計入門研修		11 名
・15日(木) 原義彦税理士事務所税理士 原義彦 氏		
10月19日(水)	女性キャリアアップ研修	18 名
10月19日(水)	㈱人事教育研究所講師 斎藤由起子 氏	
12月7日(水)	主導権を握る最強のセールストーク研修	53 名
12 月 7 日 (水)	Accept 代表 トップセールス育成塾塾長 赤嶺哲也 氏	99 1
2月2日(木)・3日(金)	幹部候補育成研修	26 名
	MR I 代表 牧野建治 氏	20 泊

③ 早稲田若手経営者ビジネススクールの開催

中小企業経営者・後継者や幹部候補者を対象に、講義・ディスカッションのほか、受講生が設定した経営課題を研究するビジネススクールを開催した。

· 受講者数 7 名 (全 10 回講義)

特別講座として、女性を対象としたセミナーを開催した。

日程	内容	担当講師	
	開講式・ガイダンス	早稲田大学 鵜飼信一教授	
4月27日(水)	講演「技術は手に宿る」	早稲田大学インキュベーシ	
	時後「1XM1な子に旧る」	ョン推進室 工藤元 氏	
5月25日(水)	 「イノベーション経営	㈱田代合金所	
3 Д 23 Д (ЛС)		代表取締役 田邊豊博 氏	
6月22日(水)	研究課題発表	早稲田大学インキュベーシ	
0 / 1 / 22 1 (/ 1 (/ 1 ()	テーマ「経営課題と解決策」	ョン推進室 清水康 氏	
7月27日(水)	「リーダーシップとコミュニケーショ	深中メッキ工業㈱	
7月21日(水)	ン」	代表取締役 深田稔 氏	
	中間発表・ディスカッション	早稲田大学インキュベーシ	
9月21日(水)	研究課題テーマ「経営課題と解決策」		
	のブラッシュアップ	ョン推進室 清水康 氏	
10月12日(水)	水) 企業見学 「中小企業の事業戦略」	㈱マテリアル	
10月12日(水)		代表取締役 細貝淳一 氏	
11月30日(水)	「中小企業の事業承継」	日本電鍍工業㈱	
11月50日(水)	「中が企業の事業承極」	代表取締役 伊藤麻美 氏	
1 日 10 口 (水)	「忽景影响」,如田事来即攻。	ダイヤ精機㈱	
1月18日(水)	「経営戦略と新規事業開発」	代表取締役 諏訪貴子 氏	
2月15日(水)	企業見学	㈱浜野製作所	
2月10日(水)	「不況に負けないチャレンジ精神」	代表取締役 浜野慶一 氏	
	修了式	早稲田大学 鵜飼信一教授	
3月15日(水)	修] 式 研究発表会・修了証授与式	早稲田大学インキュベーシ	
	別九光衣云・ド 証技子氏	ョン推進室 清水康 氏	

特別講座「先輩女性とライフステージに合わせた働き方を考えよう」

日 時:2016年11月18日(金)14:00~16:30

内容:「インタビュー形式での講演」

「意見交換・質疑応答」

講師: ㈱田代合金所 取締役 田邊晴代

㈱マテリアル 取締役 細貝恵美子

インタビュアー(進行): ㈱ハグリス 代表 内田ひとみ

場 所:大宮ソニックシティ会議室(埼玉県さいたま市)

受講者数:36名

(2) 地域企業との連携

地産地消の拡大が食の安全に大きく寄与するという認識に立ち、市民の皆様やお子様たちと共に地域の食や農について楽しく学べる場所・機会を作るため、「食と農のフェスティバル in 本庄早稲田」を本庄商工会議所の協力を得て実施した。

① 食と農のフェスティバルの開催

地産地消の拡大により地元の農業者、食品加工企業等関連事業者の振興を図るととも に、安心・安全な地元の食品に対する意識を啓発するため、親子で楽しめる催しを集め たフェスティバルを開催した。

開催日:2016年10月15日(土)10:00~15:00

会場:早稲田リサーチパークコミュニケーションセンター

主 催: (公財) 本庄早稲田国際リサーチパーク

共 催:本庄商工会議所、本庄商工会議所青年部

内容: (体験コーナー) ペットボトルピザ、マヨネーズ講座

(飲食コーナー) 窯焼きピザ、牛焼き肉、焼きそば、かき氷、パン等

(こども向けコーナー) ミニ SL、乗馬体験、おもちゃ作り教室、クイズラリ

一、絵本読み聞かせ、フェイスペイント、ハロウィン

パレード

(販売コーナー) 地元の食品、農産物

(ステージ発表) 太鼓演奏、バンド演奏、ダンス、よさこい、書道パフォー マンス

参加企業・団体数:49 社 一般市民参加者数:約3,100 名

(3) インキュベーション支援

地域経済の活性化や新規事業に伴う新たな雇用の創出を図るため、起業家やベンチャー企業の支援を行った。

(独)中小企業基盤整備機構、早稲田大学産学官研究推進センター・インキュベーション推進室、産学連携支援センター埼玉等の埼玉県関連機関、近隣の商工会議所・商工会、日本政策金融公庫や埼玉信用保証協会等の金融機関との連携を強化し、販路開拓やマーケティングなどの支援を行った。

①インキュベーション支援

1) 起業家支援

ベンチャー棟入居企業に対し、経営課題の相談や解決、公的支援の活用や国県の競争的資金への応募、営業先企業紹介やマッチング等の支援を行った。

ベンチャー棟入居企業8社、11部屋満室(会議室1部屋含む) (2017年3月末現在)

企業名	業種	入居年	大学等連携先
-----	----	-----	--------

前野技研工業㈱	電気化学式ガスセンサの開発・製造販売 太陽光発電パネルの開発・	2010年	
賛光精機㈱	製造販売	2011年	
ソフィオン バイオ サイエンス(株)	創薬研究向け研究機器の販 売・サポート	2012 年	Danish Technical Univ. (デンマーク) Cranfield Univ. (英国) Harvard Univ. (米国)
MiMコンサル(株)	医療機関向けコンサルティング	2014年	早稲田大学大学院 中 里研究室 山梨大学
ETE㈱	冷凍冷却装置用省エネ機器 「Miラクルコイル」の開 発・製造販売	2015年	上智大学 三重大学
アルジカルティベイ トエンジニアリング (株)	微細藻培養および有用物質販売	2016 年	東京大学大学院農学生 命科学研究科 神奈川大学(未来環境 テクノロジー社)
㈱ランタ	技術資料の編集、デザイン 及び研究業務	2017年	
(公財)本庄早稲田国際リサーチパーク	シェアオフィス「本庄早稲 田ビジネスプラットフォー ム」の運営	2012年	早稲田大学

2) 入居企業以外の支援

支援要請のあった下記企業に対して、課題解決に向けた継続的支援を実施した。

企業等	相談・支援内容
埼玉縣信用金庫	「さいしん若手経営塾」セミナーの講師紹介
	「ここから調達サイト」登録での受注成立
㈱ベネフィットシステム(BPF 会員)	OA 機器販売修理等の契約書に関する個別法律
	相談
オイル&アロママッサージ えんじゅ	補助金活用個別相談会への参加
(創業スクール受講生)	当財団 IT 担当者によるパソコン個別講習
スプラウト(BPF 卒業会員)	経営者としての総合力を身につける講座の紹
スクノケト(DIT 午来云真)	介
井上様 (創業スクール受講生)	創業スクール講師と個別相談
オフィス・ランタ(創業スクール受講	創業スクール講師と創業に関する個別相談
生)	割未ヘクール講師 こ割未に関する 側が性談
橋本様(創業スクール受講生)	創業スクール講師とビジネスプランのブラッ
簡本像 (創業の) 「ル文講生)	シュアップに関する個別相談
山路様(創業スクール受講生)	特徴ある名刺を作成できる業者の紹介

	第3回全国創業スクール選手権の出場支援
GreenT㈱ (BPF 会員)	当財団 IT 担当者によるパソコン個別講習
高橋ソース㈱、㈱T.M.L、井上スパイス	
工業㈱、お茶っこサロン一煎、前田食	
品㈱(地域企業)	展示会出展による販路開拓、マッチング等支援
アトリエ・ヴェール、オイル&アロマ	
マッサージ えんじゅ、小さなドイツ	
パン工房 Hirose (創業スクール受講生)	
㈱アルイテ、GreenT㈱、(一社)彩の国	
共生福祉会、道経渋沢社労士事務所、	
スタジオジュリアス(合同)、PT. Halo	BPF 新規入会による各種支援
Bisnis Inodonesia、Mommy'S code、木	
島様、KDDI プリシード㈱、天城屋㈱	

②本庄早稲田ビジネスプラットフォームの運営

資金力のない起業家や創業準備者、プロジェクト段階でのスタートアップに対して インフラ提供や経営相談などを行い、情報共有やネットワーク形成を通じた新規創業 や新規事業の創出を支援した。

会員数 26 社 (2017 年 3 月末現在)

③IOC 本庄早稲田入居者セミナー・交流会の開催

IOC 本庄早稲田入居企業ならびに本庄早稲田ビジネスプラットフォーム会員の経営知識の涵養、事業展開を視野に入れたマッチングや提携等のきっかけとなるセミナーや交流会を開催し、地域企業連携や地域関係機関とのネットワーク確立を支援した。

日程	内容	講師	参加者数
7月21日(木)	【第8回 IOC 入居者交流会】 ○セミナー「埼玉県による中 小企業支援について」 ○交流会	埼玉県産業支援課 主査 川田明久 氏	29名
11月16日(水)	【第9回 IOC 入居者交流会】 ○個別法律相談会 ○セミナー「労働契約法改正 ~そろそろ準備が必要か も?無期労働契約への転換 制度について!~」 ○交流会	ターナー法律事務所 所長弁護士 鈴木理晶 氏	29名
3月16日(木)	【第10回 IOC 入居者交流 会】 ○セミナー「銀行の活用方法 や事業者の皆様への支援に ついて」 ○交流会	武蔵野銀行 地域サポート部 守谷 氏 本庄・本庄南 支店長 戸谷 守 氏	28名

④創業スクール~ゼロから始める創業スクール~の開催

(平成27年度 中小企業庁 地域創業促進支援事業)

起業に関心はあるがハードルを感じている会社員、主婦、学生、定年退職者等を対象に、講義とビジネスプランの作成およびブラッシュアップを通して起業のハードルを下げ、起業・創業をより身近なものとするため創業スクールを開催した。

創業における課題の解決や修了生同士のつながりを継続するために結成したOB会を開催するほか、修了生のイベント参加を支援した。

また、本庄市及び上里町における創業支援事業計画に位置付けられた。

1) 事前説明会 ・参加者数8名

日程	内容	担当講師
	創業スクール説明会	創業スクールメイン講師
	• 講座概要説明	(辰野博一 氏)
9月3日(土)	・創業スクール修了生による	創業スクール修了生
	創業体験談	(A-PLAN㈱小林雅宜 氏)

2) **創業スクール** ・受講者数 11 名 (全 7 回講義)

メイン講師 早稲田大学インキュベーション推進室 辰野博一 氏

	平価田八子4 ノヤユベージョン推 	Т
日程	内容	担当講師(メイン講師以外)
	ビジネスプランの作成準備	ゴルフ&バラエティーふかや
9月24日(土)	創業のビジョンとビジネスモ	代表 福澤寬之 氏
9 /7 24 H (L.)	デル	(有)スマイルサービス
	地域の創業者による体験談	代表 松原律子 氏
10日1日(上)	マーケティングの基礎知識	
10月1日(土)	営業・販売戦略	
		本間税務会計事務所
10 8 0 8 (1.)	会計・税務の基礎知識	税理士 本間実 氏
10月8日(土)	税務の基礎知識	ターナー法律事務所
		弁護士 鈴木理晶 氏
	次人到法上八劫士抵制库办江	㈱日本政策金融公庫熊谷支店
10 🗆 00 🖽 ()	資金調達と公的支援制度の活	融資課長 古閑潔 氏、秋山友歌 氏
10月22日(土)	用	㈱日本野菜(タダヤサイドットコム)
	地域の起業支援	代表取締役 髙橋栄治 氏
10 8 00 8 (1.)	プレゼンテーション	
10月29日(土)	ビジネスプラン事例	
11月5日(土)	ビジネスプラン作成ワークシ	
	ョップ	
		早稲田大学インキュベーション推進
		室 工藤元 氏
11月19日(土)		㈱日本政策金融公庫熊谷支店
	プレゼンテーション実践	融資課長 古閑潔 氏
		本庄商工会議所
		事務局長 田中一成 氏
		当財団 池田泉

3) 創業スクール OB 会

日程	内容	創業スクール受講者以外の参加者
6月25日(土)	・参加者による近況報告 ・ SAITAMA Smile Women フェスタ、食と農のフェスティバルへの出展について	
11月26日(土)	・個別相談 ・セミナー(辰野博一講師) 「創業お役立ち情報」(補助 金・助成金情報や便利ツール などの紹介)	早稲田大学インキュベーション推進 室 辰野博一 氏
3月18日(土)	・セミナー 関東経済産業局「創業予定者 や創業後間もない方に利用し やすい施策の紹介」 本庄商工会議所「小規模事業 者持続化補助金について」	関東経済産業局 宮寺 氏本庄商工会議所 課長補佐 飯島 氏

4) イベント参加

販路開拓の機会提供のため、修了生から参加希望者を募り、出店を支援した。 SAITAMA Smile Women フェスタ (2016年9月10日、11日)3名参加 食と農のフェスティバル (2016年10月15日)2名参加

5) 創業実績

2015年度受講者:受講者数23名 創業者数7名

バッグの製造・販売、印刷プロデュース、ドイツパン製造・販売、

マタニティペイント、アロママッサージ、疑似窓製造、ウェブデザイナー

*第2回全国創業スクール選手権 経済産業大臣賞受賞、スクール 10 選受賞

2016年度:受講者数11名 創業者数2名

グラフィックデザイナー、技術資料作成業務

*第3回全国創業スクール選手権 セミファイナリスト (16名) に選出

⑤展示会等への参加(再掲)

展示会、商談会等へ参加し、入居企業や県内企業の技術力、当財団のプロジェクトなどをPRした。

名称	開催日	会場	来場者数
FOOD TAIPEI 2016(台北国際食品見	6月22日(水)~	台北南港展覧館	67, 599 人
本市)	25 日 (土)		.,, .
ウェルネスフードジャパン 2016	8月2日 (火)	東京ビッグサイ	46,517人
	~4 日 (木)	1	10,011/0

SAITAMA Smile Women フェスタ 2016	9月10日(土)	さいたまスーパ	94 909 1
SATIAMA Smile women ノエハタ 2016	~11 日(日)	ーアリーナ	24,892 人
産学連携フェア 2017 (彩の国ビジネ	2月1日(水)	さいたまスーパ	17 149 Å
スアリーナ 2017 同時開催)	~2 日 (木)	ーアリーナ	17, 142 人
ENEX(第 41 回地球環境とエネルギー	2月15日(水)	東京ビッグサイ	E2 106 Å
の調和展)2017	~17 日(金)	F	53, 106 人

※来場者数は主催者発表による

≪成果と展開≫

県北部地域を中心とした北関東地域の産業支援拠点として、地域産業の経営基盤を 強化し、新たな産業の創出を促進するため、地域の特徴を活かした産業支援策を実施 した。

- ・公益法人として広く地域産業の人材育成に貢献するため、早稲田大学等と協力し独 自性のあるプログラムを提供するとともに、経済団体の協力を仰ぎながらさらなる普 及を目指す。
- ・企業の人材育成を支援するため、引き続き本庄早稲田塾を開催する。
- ・地域で活動している食や農に関係する市民団体や企業等と協力し、食と農のフェス ティバルを開催する。
- ・IOC 本庄早稲田入居企業や「本庄早稲田ビジネスプラットフォーム」会員等の交流を 促進し、地域産業と大学の研究成果を融合した成長性のあるベンチャー企業の創出、 支援を行う。
- ・地域における"起業風土と起業家精神の涵養"、起業・創業がより身近なものとなることが本庄地域の振興につながることを目的とし、なおかつ本庄市および上里町の 創業支援事業計画への参画を加味した創業スクールを開催する。
- ・県内外の展示会等に積極的に参加し、地域企業の取引拡大等を支援するとともに、 産学官連携、産業支援の拠点として財団の認知度を向上させる。

3. 地域連携支援事業

(1) 先進的まちづくり活動支援事業

「本庄早稲田の杜づくり」構想の推進に協力するとともに、川淵三郎塾等、先進的まちづくりに取り組む地域関係者との連携を進め、地域の活性化に貢献した。

① 本庄早稲田の杜づくり活動支援

本庄早稲田の杜のまちづくりについて研究と実践活動している「本庄早稲田まちづくり活動勉強会」にメンバーとして参加するとともに、主催イベントの企画運営を支援した。

「本庄早稲田まちづくり活動勉強会」

- ·定例会議: 每月1回開催
- ・主催イベント
- ・本庄早稲田の杜「まち歩き」
- 6月11日(土) 参加者:29名
- ・「第5回流しそうめんフェスタ」
- 7月31日(日)埼玉ひびきの農業協同組合駐車場及びホール 参加者:500名
- ・「早稲田の杜ハロウィンプロジェクト 2016」

10月15日(十)

本庄早稲田駅から「食と農のフェスティバル 2016」の会場まで仮装パレード パレード参加者:約250名

本庄早稲田駅人道橋及び自由通路をハロウィンの装飾

- ・まちみがき活動: 早稲田の杜周辺のゴミ拾い・除草 毎月第3土曜日 午前 9 時より実施
- ・男掘川河川維持活動:5月21日(土)、7月16日(土)、9月17日(土)遊歩道の除草、木の枝伐採

「本庄早稲田の杜地域連携展覧会 2016」

「古代のこだま地域ー奈良・平安時代のくらしー」

本庄市・美里町・神川町・上里町各教育委員会および早稲田大学からの要請により、共催として実施した。

会場:早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター情報資料室

開催期間:7月9日(土)~8月2日(火) 日曜日閉室 来場者:820名

・オープニングセレモニー 7月9日(土) 来賓および出席者:341名

・公開講座(本庄市市民総合大学と共催)

7月2日(土) 講師: 丸山修(上里町教育委員会)

「上里町藤木戸条里と田中遺跡群」 受講者:89名

7月9日(土) 講師:川尻秋生(早稲田大学)

「古代の北武蔵-郡(評)家から将門まで」 受講者:127名

7月16日(十)講師: 金子彰男(神川町教育委員会)

「神川町皂樹原遺跡と古代の賀美郡・児玉郡」 受講者:104名

・ワークショップ「はにわを作って古代を知ろう」(小学校4年生以下親同伴) 7月23日(土)、30日(土) 参加者: 各日15組

講師:田中宏昭(本庄土器埴輪友の会)、井上裕一(早稲田大学)

② 地域環境を活かした新たなスポーツ施策の支援

川淵三郎塾の活動支援

2009年4月に早稲田大学特命教授に就任した日本サッカー協会最高顧問川淵三郎氏を迎え、本庄市において市内のスポーツ団体や行政の関係者による川淵三郎塾実行委員会、幹事会を組織し、本庄市の掲げるスポーツ施策のスローガン「市民一人1スポーツ」を実現するため、川淵三郎塾を開校した。2012年度からは実行委員会形式から市主催に移行し事業展開を行った。財団は早稲田大学とともに塾の事業運営に協力し、市民へのスポーツの普及やスポーツを通じた地域の活性化に貢献した。

【行きたくなる場所づくり】

事業内容:本庄東小学校校庭芝生化

日 程	内 容	場所
6月28日(火)	芝生の定植作業	本庄東小学校校庭

【ウォーキング事業】

事業内容:いつでも、どこでも、誰でも気軽に取り組めるウォーキングの普及促進

日 程	内 容	場所
2017年	春のウォーキング教室の開催	本庄総合公園~早稲田の杜堪
3月25日(土)		能コース
		(ウオーキングマップ No. 5

4.5 km)	参加者:52名	
4.5Km)	変加有:52 名	

【効果的なイベント】

日 程	内 容	場所
2017年	川淵三郎塾 指導者講習会	早稲田リサーチパーク・コ
2月27日(月)	「少年期スポーツにおける	ミュニケーションセンター
	「食」について」~試合に勝つ	参加者:54名
	ための食事~	
	早稲田大学重点領域機構 持	
	続型食・農・バイオ研究所	
	村田浩子	

③ 映像のまちづくり支援

今年度は実施に至りませんでした。

(2) 地域の人材育成支援事業

早稲田大学、埼玉県、本庄市など関係機関と連携し、地域の子どもたちに対し環境教育、 科学技術教育、多文化共生の理解増進のための講座・教室を開催し、本庄地域の未来を担 う人材の育成に貢献した。なお、成人向けには医療講演会を開催した。

① 本庄早稲田の杜こども科学実験教室の開催

地域の子どもたちの科学技術の理解の増進のため、早稲田大学大学院や早稲田大学本庄 高等学院と共催で科学実験教室を開催した。当財団は事務局として、関係者と調整を図り 参加者の募集、応募者多数のため抽選後全員へ通知、講師等との連絡・調整を行った。

- ・7月29日(金)「夏休み親子スーパーサイエンス教室」4教室(午前・午後2教室ずつ) 参加者:72組 主催:早稲田大学本庄高等学院 共催:当財団
- ・8月3日(水)「本庄ユニラブ 2016」12 教室(午前5 教室・午後7 教室)参加者:108名 主催:早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科、早稲田大学環境総合センター 共催:当財団
- ・12月27日(火)「冬休み親子スーパーサイエンス教室」4教室(午前・午後2教室ずつ) 参加者:83組 主催:早稲田大学本庄高等学院 共催:当財団

② 小学校環境学習の開催

本庄市内の小学校の総合的な学習の時間を支援し、児童の環境教育の理解増進に貢献した。

·本庄市立仁手小学校 6月22日(水) 4年生:14名、5年生:10名 講師:NP0早稲田環境教育推進機構 講義內容:自転車発電

・本庄市立南小学校 7月7日(木) 5年生:72名

講師:本庄市環境推進課 講義内容:女掘川の環境について

・本庄市立東小学校 11月25日(金) 5年生:114名

講師:NP0 早稲田環境教育推進機構 講義内容:自転車発電

・本庄市立旭小学校「旭小環境学習会」 12月2日(金) 5年生:64名

6 班に分かれて、ごみ問題・地球温暖化・生態系・酸性雨等・森林伐採・放射能についての授業を行った。

講師:早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科、㈱ぐんま東庄、埼玉県(環境政策課、環境科学国際センター)、森林インストラクター、本庄市環境推進課

・本庄市立北泉小学校 12月13日(火) 5年生:47名

講師:NP0早稲田環境教育推進機構 講義内容:自転車発電

本庄市立共和小学校 12月14日(水) 6年生:34名

講師:NP0 早稲田環境教育推進機構 講義内容:風力発電

・本庄市立南小学校 2017年2月2日(木) 5年生:72名

講師:NP0 早稲田環境教育推進機構 講義内容:自転車発電

③ 生涯学習活動支援

子ども大学ほんじょう

6月26日(日)入学式から12月3日(土)の修了式まで10回の講義と学園祭に実行委員 として企画・運営に参加

受講者児童:延べ652名 学園祭来場者:400名

講義内容:地元企業見学、早稲田大学キャンパスツアー、児玉郡市マスコットキャラクターのひみつ、宇宙の不思議を学ぼう、はにわ作りをとおして古代を知ろう等

③ 地域住民の医療や健康促進についての講演会等の開催

地域の医療と健康、福祉に関する講演会を市民大学として開催し、交流の場を提供する ことを目的としたGHWの会と共催で地域医療講演会を開催した。

・5月14日(土)「糖尿病と生きる」-健康長寿を目指して-

講師:東京大学医学部附属病院糖尿病·代謝内科医師 梅松瞳

参加者:105名

・8月27日(土)「筋肉」の正しい育て方ー健康の秘訣は「筋肉」にありー

講師:管理栄養士、健康運動指導士、東洋大学非常勤講師 竹並恵里

参加者:119名

・10月29日(土)「音楽と言葉」による癒しの世界

講師: 声楽家、音楽朗読セラピスト、熊谷市歴史文化講師 稲村昌克

参加者:99名

・2017 年 1 月 28 日(土)「進化するジェネリック医薬品の姿」 - 使ってみませんかジェネ リック医薬品 -

講師:日本ジェネリック医薬品学会理事 有山良一

横浜市立大学附属病院薬剤部課長補佐 小池博文 参加者:70名

・2017年3月4日(土)「角膜移植手術の現状と白内障手術」

講師: 日本大学医学部眼科学主任教授 山上聡 参加者:81名

(3) 地域環境保全事業支援

里川の再生、里山環境保全活動を普及・推進するため、自然環境への理解を深める体験 事業を支援する。2016年度は、埼玉県川の国応援団美化活動団体に登録し、さらに里川 保全活動を推進しました。

① 本庄早稲田の杜「里山塾」2016の開催

早稲田大学本庄キャンパスのある大久保山は、市内でも最もまとまった雑木林が残された場所の一つです。里山の中で、動植物の観察だけでなく、里山の循環について学び、体験することにより、里山の持続可能な利用や人と自然との共生について学んだ。さらに大久保山の歴史にも触れ、時の流れを通じた人と自然の関わりについても考察した。

・当財団は事務局として、参加者の募集、開催ごとに参加者へ通知、講師等との連絡・ 調整を行った。登録者:51名

講師:大堀聰(早稲田大学基幹理工学部)、荒川正夫(当財団専務理事)

番外編4月30日(土)「春の散策」キンラン・ギンランの観察 公開講座参加者:26名

・1年間 全8回(同じメンバーで開催)

①5月21日(土)「大久保山散策(オオタカ、シジュウカラ観察)」 参加者:37名

②6月4日(土)「循環型農業(サツマイモ植え付け)と散策」 参加者:38名

③7月2日(土)「大久保山の歴史と塚本山散策」 参加者:34名

④9月24日(土)「エクスカーション(湯沢清水集落)」

講師:大前純一(NPO法人 ECOPLUS 理事)、清水集落の皆様

参加者: 26 名

⑤10月1日(土)「循環型農業(サツマイモ収穫)と散策」

参加者:37名

⑥11月5日(土)「エクスカーション(所沢キャンパス)」

参加者:30名

⑦12月17日(土)「里山保全活動(落ち葉かき)」

参加者:48名

※第7回は、公開講座として一般の方も参加

⑧2017年1月21日(土)「1年間の活動の振り返りと散策」 参加者:32名4回以上出席の参加者全員に修了証を授与。皆勤賞12名とボランティア参加者へ記念品

を贈呈した。

・里山塾参加者に声をかけ、「里山ボランティア」を結成し、畑の除草や畝づくりを5月31日(火)、 植栽地の草刈り、サツマイモ畑の草刈り・蔓返しを9月6日(火)、12月6日(火)に大久保山の落木落枝の片付、ササ刈りを実施した。

全3回 参加延べ人数:35名

② 河川調査体験学習会の開催及び河川保全活動支援

・本庄市立藤田小学校 5、6 年生(総合の学習の時間テーマ:環境)と早稲田大学本庄高等学院(SSH河川研究班)との協働河川調査・年2回・小山川、元小山川

当財団は事前授業の講師及び関係者のコーディネートを担当

埼玉県主催「第 18 回彩の国埼玉環境大賞」に藤田小学校と早稲田大学本庄高等学院、 NPO 法人川・まち・人プロデューサーズの協働河川調査を推薦したところ、優秀賞を 受賞。

参加者 60 名(内訳:5 年生 16 名、6 年生 14 名 先生、学生、講師、スタッフ等約 30 名) 協力:埼玉県(本庄県土整備事務所、環境科学国際センター)、本庄市、

NPO 法人川・まち・人プロデューサーズ

- ・6月1日(水) 「藤田小学校 河川調査事前授業」
- ・6月8日(水) 「藤田小学校 河川調査」
- ·6月15日(水) 「藤田小学校 河川調査事後授業」
- ・10月26日(水)「藤田小学校 河川調査」

·11月9日(水) 「藤田小学校 河川調査結果報告」

・2017年3月11日(土) 川のシンポジウム 2017

「元小山川を取り巻く環境について」

主催: NPO 法人川・まち・人プロデューサーズ、当財団

共催:早稲田大学本庄高等学院・本庄市立藤田小学校

後援:埼玉県本庄県土整備事務所、本庄市、本庄市教育委員会参加者:55名

・男掘川周辺企業と財団の共催による男堀川の生物調査

主催:当財団

共催: ㈱カインズ、埼玉ひびきの農業協同組合、賛光精機㈱、JR東日本本庄早稲田駅、本庄早稲田まちづくり活動勉強会

協力:埼玉県(本庄県土整備事務所、環科学国際センター)、本庄市

10月8日(土)里川保全活動「川の生きものみっけ隊」男堀川の生物調査・清掃活動

参加者:25名(地域住民親子など) スタッフ:33名

場所: 男堀川 (本庄早稲田駅周辺、埼玉ひびきの農業協同組合本店前)

③ 小学校森林学習支援

今年度は実施に至りませんでした。

(4) 国際理解·国際交流促進支援

本庄市・児玉郡地域の多文化共生社会の実現に向けて、早稲田大学国際教養学部、早稲田大学国際コミュニティーセンター、本庄市・児玉郡など関係機関と連携し、小学校の児童を対象とした国際理解・文化交流の授業の開催、地域住民との異文化理解を深める文化講座や交流会を開催した。また、これらの活動を通じ、まちづくりの人材育成や地域の活性化に貢献した。

当財団は事務局として、各小学校からの要望を集約し早稲田大学と調整を図り、留学生を決定。留学生と綿密な打合せをもち、授業当日、授業の進行役と通訳を務めた。授業終了後は、留学生に塙保己一記念館などの名所を案内するとともに、キャンドル作りや匂い袋作りなどの体験をコーディネートした。これにより、留学生の地域への理解を深めてもらうとともに、地域住民の国際理解を深めることにも貢献した。

① 小学生出張国際理解学習の開催

- ・本庄市立本庄南小学校 6 月 9 日(木) 早稲田大学留学生 2 名 (アメリカ、イギリス)派遣 6 年生:71 名
- ・上里町立賀美小学校 6月 21日(火) 早稲田大学留学生 2名 (ポーランド、アメリカ)派遣 6年生:40名
- ・本庄市立仁手小学校6月28日(火)早稲田大学留学生1名(ポーランド)派遣6年生:10名
- ・本庄市立本庄東小学校11月10日(木)早稲田大学留学生2名(アメリカ、オーストラリア)派遣6年生:120名
- ・本庄市立藤田小学校 11 月 16 日(水)早稲田大学留学生 1 名(中国)派遣 6 年生:14 名
- ・本庄市立中央小学校 11 月 18 日(金) 早稲田大学留学生 2 名 (カナダ、パキスタン)派遣 5 年生:93 名

- ・本庄市立西小学校 11 月 21 日(月) 早稲田大学留学生 3 名 (アメリカ、台湾) 派遣 6 年生:69 名
- ·本庄市立児玉小学校 11 月 29 日(火) 早稲田大学留学生 3 名(中国)派遣 5 年生:65 名
- ·本庄市立本庄北泉小学校 12月7日(水) 早稲田大学留学生2名(中国、台湾)派遣 6年生:46名
- ・本庄市立共和小学校 2017 年 2 月 17 日(金) 早稲田大学留学生 2 名 (カナダ、オーストラリア)派遣 1 年生:27 名、2 年生:32 名、5 年生:25 名

② 国際交流・多文化共生を促進する講座や交流会の開催

本庄市国際交流協会開催のイベントや地域観光協会主催イベント情報を早稲田大学国際教養学部留学生へ発信し、参加希望者を募ったが、今年度は参加者なし。紹介イベント:本庄市国際交流協会バスツアー、20周年記念フェスティバル、多国籍料理教室。

◆成果と展開

本庄早稲田駅周辺を核とした「本庄早稲田の杜づくり」構想の推進に協力するとともに、川淵三郎塾等、まちづくりに取り組む地域関係者との連携を進め、地域の活性化に貢献した。

2017年度は、先進的まちづくり、人材育成、環境保全、国際交流等の支援事業の取り組みをさらに充実・発展させる。また、市民団体が実施する地域医療を考える講演会の支援を図るとともに、地域住民のまちづくり活動や環境保全活動等の自立的活動を育成・支援し、本庄市・児玉郡地域の活性化と振興を推進する。

4. 研究教育施設管理運営事業

IOC (インキュベーション・オン・キャンパス)本庄早稲田、早稲田 RPCC (リサーチパーク・コミュニケーションセンター)は、産学官連携による共同研究の実施、新事業の創出などのための基盤となる中核的施設である。地域住民やインキュベーション棟入居企業を含む地域企業に対して開かれた施設運営を目指し、企業セミナー等を通じた交流の促進、埼玉県内外からの視察の受け入れ等により、当施設の PR 活動を積極的に進めた。

(1) IOC本庄早稲田の管理・運営

A・B棟は早稲田大学をはじめとした他大学・研究機関と企業などとの産学官連携による研究開発や人材育成の拠点として、V棟は新規事業や第二創業を行う企業活動の拠点施設として運営を行った。

(独) 中小企業基盤整備機構(以下、中小機構) と早稲田大学の基本合意に基づき、中小機構よりA・B棟を借り受け、早稲田大学へ高度技術開発および共同研究の拠点として貸与した。

(2) 早稲田 RPCC (リサーチパーク・コミュニケーションセンター) の運営

産学官連携、地域産業の活性化等の財団の各事業を展開し、交流活動の拠点として運営した。また、地域の人材育成や啓発活動を行う団体や企業等へ施設の貸与を行い、交流・活動拠点の場として提供した。

利用者数 257 団体 (うち有料貸出:70 団体 免除 187 団体)

5. 環境問題支援事業

(1) 環境問題支援窓口・コーディネート事業

当財団が中心となり、企業、行政機関、地域が直面している諸課題に対して、これまでの活動で培ったノウハウと産学官および海外との協力体制に基づき、解決方法を提供するためのサービス構築を行っている。会員企業等からの海外展開をはじめとする多様なニーズが高まっているなかで、受託研究、コンサルティング機能のノウハウ蓄積と人材育成を図っていく。

1) 環境問題に関わるコンサルティング及びコーディネート

①パーム油・廃食油を利用した固定価格買取制度による発電・売電事業に関わる調査事業 [事業概要]

(㈱早稲田環境研究所が実施する「パーム油・廃食油を利用した固定価格買取制度による発電・売電事業に関わる調査事業」について、インドネシア原油輸送ルート検討を中心とした助言と調査支援を行う。

1. 案件名:アドバイザリー業務

2. 委託元: ㈱早稲田環境研究所

3. 契約期間: 2016年12月1日~2018年3月31日まで

. 業務委託契約費:540,000円(税込)

②インドネシアでの自動車用バッテリー再生事業の現地法人設立および太陽光発電事業 検討のための現地調査

目的:当研究会会員企業㈱ウェーブ(本社:鴻巣市)の依頼により、インドネシア現地での自動車用バッテリー再生事業を行うため、BuleBird Group(大手最大タクシー会社)へのヒアリングや現地事業パートナー紹介等の支援を実施した。また太陽光発電、パーム油発電、ビルメンテナンス事業に関しても関連機関の訪問を実施して情報を収集した。

訪問期間:2016年8月7日(日)~11日(木)

訪問先:インドネシア共和国

訪問者:㈱ウェーブ代表取締役 遠藤裕幸、当財団 池田

成果: 2017年1月、現地合弁法人設立。国営電力会社と売電契約について交渉中である。

団への委託費:今回の調査経費約300,000円を㈱ウェーブが負担。

6. 理事会、事務局等

1 評議員会

2016 年度第 1 回評議員会: 2016 年 6 月 30 日 2016 年度第 2 回評議員会: 2017 年 3 月 30 日

2 理事会

2016年度第1回理事会: 2016年6月2日 2016年度第2回理事会: 2016年6月30日 2016年度第3回理事会: 2016年12月21日 2016年度第4回理事会: 2017年3月30日

3 役員、評議員の変更

○評議員就任

2016年6月30日付け

大野高裕 勝田正文 吉田 茂 根本 進 立川吉朗 増田伸二 畠山史郎 岩田靖人 奥田謁夫 関根孝道 原田信次 渡辺 博 小西克亨 八代克彦 内田睦夫 池田清造 山下芳生 天田清之助

○理事就任

2016年6月30日付け

橋本周司 岩崎康夫 吉田信解 荒川正夫 白井克彦 清水雅之 堀籠秀直 室久保貞一 根岸茂文

○監事就任

2016年6月30日付け 鈴庄一喜 若林 圭

4 事務局

職員

2016年3月3	11日現在	2017年3月31日	現在
出向職員	2名	出向職員	2名
駐在職員	2名	駐在職員	2名
正職員	1名	正職員	1名
契約職員	7名	契約職員	7名
派遣職員	1名	派遣職員	1名
合 計	13名	合 計	13名